

白鹿山、真山の活用への積極的参画

250806、くにびきメッセ国際会議場

法吉・白鹿・真山の自然と文化を育む会 会長 岡崎雄二郎

1 会の発足と経過

- ・平成2年(1990)、県の「みんなで守る郷土の自然」としてミスジカワニナ生息地が選定された。
- ・平成3年(1991)、法吉公民館長ら地区の有識者で協議し、白鹿山、真山がミスジカワニナの生息地であること、戦国時代の山城跡があることからその保全と活用を図るため、本会が発足した。
- ・平成4年(1992)、県の「法吉北部地区みんなでつくる身近な自然観察路」に選定された。
- ・平成9年(1997)、法吉地区こどもエコクラブを立ち上げた。
- ・平成30年度～令和3年度(2021)まで休止した。
- ・令和4年度(2022)から活動を再開した。県の委託事業、補助事業に採択され、整備・活用を行ってきた。
- ・令和6年(2024)7月7日、「月山富田城と尼子十旗の連絡会」が設立され、一員となる。

2 整備

- ・登山道、林道真山線沿いに解説板、案内標柱、啓発看板の設置
- 登山道 急斜面が多い 木製階段、安全ロープの設置

3 活用

- ・登山会、自然観察会、ホタル観察会、椎茸栽培、講演会、小冊子、パンフの印刷・配布
- ・北田(常福寺)川 松江市河川公園(平成10年完成) ホタル観察会 天気に左右される。栽培、収穫のタイミングが計れない。
- ・椎茸栽培 コナラの倒木利用。未経験だったこと。山上での作業

4. 課題

(1) 自己資金の安定的確保

- ①これまでの収入は、会費、寄付金、参加費のみ
- ②24年夏から「御城印(白鹿城、真山城)」の印刷、販売を開始した。

③25 年 6 月から「自然観察のガイドブック」の販売を開始した。

(2) 委託事業、補助事業の活用

①これまで自然環境の保護、活用の分野が全て、最長 3 年度まで

②文化財、城跡の保護、活用は補助事業としては無く、実施が難しい

(3) スタッフの確保

①自然環境のガイド、島根大学の学生のボランティアグループの参画・支援

→24 年 2 月 7 日、まちづくりでつながる日で島根大学生のボランティア組織

「総合環境サークル エコロジーネットワーク」を初めて知る

→25 年 7 月 7 日、ホテルの観察会に 5 名参加され、ホテルの解説の一部を担当された。草刈りも

②文化財、城跡のガイド、今後養成する。

(4) 土地所有者の理解

①土地所有関係の調査

②城跡の主要部分を文化財（史跡）に指定する

→補助事業で史跡の整備が可能となる

5. まちづくりへの道のり

①白鹿山と真山が、身近にある貴重な自然環境と歴史環境であること。

②さらに、私たちがこれから生きていく上で、法吉地区の貴重な生活環境の一部であることをみんなが認識することが大切なこと。

知る、学ぶ→事業に参画する→まちづくりに活かす

③法吉地区の標語「住みたい住みつづけたいまち 法吉」につながるものである。